

WORKSTATION TIMES

2016 June vol.8



島大OG・福間加代子さんのドイツ体験記

研究の道に進まれ、立派に活躍されている先輩にインタビューをお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。院進学を考えている方はもちろん、まだ将来に迷っている人も大きな参考になると思います。

2011年	島根大学法文学部言語文化学科	文化と創造コース	卒
2013年	島根大学人文社会科学部	研究科(美術史)	修士 卒
2015年	京都大学文学部	研究科思想文学	修士 卒
2015年	京都大学文学部	研究科思想文学	博士 入学



ゲテ奨学金を獲得し、ドイツへ語学研修へ！～大学院での留学の内情【語学学校】～

京都大学の大学院に通いながらGOETHE INSTITUTという京都にあるドイツ語学習の学校に通われていた福間さん。勉強熱心さが伺えます！島根大学の学部や修士時代にも頑張り屋さんな部分は発揮されていたそうです。GOETHE INSTITUT独自の奨学金に応募し、書類選考や試験にも見事合格され、航空費や宿泊費を支給してくれる奨学金を獲得されました。なんと！この奨学金に合格されたのは関西で一人だそうです。また、生活費のほとんどを奨学金で賄えるので、実際にかかった費用は食費と美術館等の入館料、お土産代くらいで済みました。これが奨学金獲得までの大まかな流れです。そして、2015/11/21-12/16の間、ミュンヘンでの語学研修に参加され、その後12/17-12/21の間、ウィーンで過ごされました。

～語学学校での生活～

ミュンヘンにもGOETHE INSTITUTがあり、そこで学習されました。午後はずっとドイツ語の授業を受け、学校主催のイベントにもよく参加されていたそうです。「毎日イベントと大量の宿題に追われ忙殺されそうだった」と懐かしみながらお話をしていたのが印象的でした。普段は、福間さんと同じ奨学金を獲得されたスーダン人の男性とインド人の女性とともに行動されていたそうです。すごくドイツ語ができて刺激になったと伺いました。また、ミュンヘンの人は親切だと感じたエピソードがたくさんあったそうです。福間さんが通われていた美術史研究所で、ミュンヘン大学への行き方や大学の授業を受けるにはどうしたらいいのか思案されていたところ、そこにおられたおじさんが行き方から予約のことまで全部調べてくださり、伝えてくださったそうです。このことから「ドイツに行くならミュンヘンがお勧めだよ」と話してくださいました。

ドイツに行くなら
ミュンヘンへ！



～ドイツ文化紹介～

女性の服装は革ジャンに革の細身のパンツが定番だったそうです。パンツの細さは日本ではくると驚かれるほどなので、福間さんはお土産に少し緩めのものを買われたそうです。

～今後について～

今年10月～休学されて1年間ウィーンに留学することが決まっております。今はドイツ語の強化に励んでいらっしゃるそうです。また、博士論文に向けての準備もされています。

CCS主催・餃子パーティーを開催しました！



2016/5/14(土)に国際交流会館の調理室をお借りしてCCS主催で餃子パーティーを開催しました！中国語担当先生をはじめ、中国人留学生の方も参加して下さり、文化交流ができました。CCSのメンバーも今年度からは15人ほどになりますます活気があふれています。

CCSの事前準備で、餃子の材料と作る順番を説明していただいたおかげで、スムーズに作る事ができ、皆と一緒に野菜を細かく切ったり、餃子の皮を作ったり、餃子を包んだり、話しながら餃子を作ったりして、家族みたく、すごく楽しかったです。特に、孫先生が包んだ餃子がすごくきれいで、孫先生の「小鸡炖蘑菇」と「豆腐皮」がとても美味しく、ついでにたくさん食べてしまいました。また、王先生が作った「凉拌菠菜」も美味しく、中国に戻って中国料理を食べている思いがしました。皆と一緒に過ごした週末は最高でした。良い思い出になりました。



新着DVD紹介！

STARWARS THE COMPLETE SAGA

5月4日はスターウォーズの日です！由来はあの名ゼリフ "May the force be with you."からです。今年の5月4日にはシリーズ最新作「スターウォーズ/フォースの覚醒」のDVD&Blu-rayが発売されました。というわけで、ワークステーションにエピソード1～6までが収録された"STARWARS THE COMPLETE SAGA"が入りました！最新作を見てストーリーをおさらいしたくの方や、最新作を見る前に予習しておきたいという方・・・ぜひご利用ください！もちろん最新作のDVDも近日入荷予定です。



今月の「わたしの先生」！



深町 悟先生

英語担当

Dear Students, It's been almost three months since I started working here. Although they say time passes quickly, these past three months I've been through are not the case. I had to face the sequence of challenges here and it's just a beginning. The students I'm currently responsible are freshmen and sophomores with some exceptions. Every time I meet you in class, it reminds me that I used to be there too. The feeling of being back to an undergraduate again, this also reminds me what I wanted from teachers. The things are: 1. new knowledge that you can learn only from experts, 2. intellectual stimulation that makes you hungry for knowledge, 3. class to be dismissed a few minutes earlier. Meeting with students jogs some of my memories and keeps them fresh, I'll try my best to intellectually nourish you and simulate you, and not to give too much pressure on you. Most of you have majors other than English or English related subjects, and I know that you can't afford to spend a lot of time on studying that language. So do not study English, because you can't chase two rabbits. Instead, just include it in your hobbies, and don't start with something difficult, for it might make you think that you are incapable. It's a long way anyway. If you find something entertaining, you'll find it much easier to go further. Using the Internet might be a great help for it. Good luck on you.

法文学部社会文化学科3年 E・Kさん（女）

2016年2月中旬～3月中旬

アメリカ ミシガン大学

語学研修

Q. 参加した目的は何ですか。

A. ネイティブな環境で実用的に英語を使っていきたくったというのと、何気なく過ごしている日々や目標もただただ過ごしている自分に刺激を与えたくったからです。私は、中学生の頃から英語が大好きで、将来も英語を使った職に就きたいと中学生ながら考えていました。大学生になって、就職というのが現実味を帯びてきた頃で、私はきちんといま夢や目標に向かって走れているのだろうか、進んでいるのだろうかという不安があるなかで、この不安を解決するためにも、もしくは解決するというのではなく何かヒントになるものをミシガンへ行って自分自身で気づけて、今後に生かして行けたらなと思いました。



Q. どんなことを学びましたか。

A. 現地学生と英語でコミュニケーションを図るという大変貴重な経験をする事ができました。これは、単に語学力向上だけではなく、グループワークなどを通して「メタ認知」という能力を鍛えるというアカデミックスキルも学ぶことができ、さらに、自分自身をさらに見直すこともできました。グループワークやネイティブとのコミュニケーションの中で自分を客観的に観察することで、いま自分は英語を使ってこんなにもネイティブの方々と話をする事ができているということにも気づけ、少し自信を持つことができ将来の夢をより実現したくなりました。それまで自信が持てず、将来の夢を漠然と抱いてきた私にとって今回の研修による学びや気づきのおかげで、自分の将来に向かってすべきことを見直し、行動に移す一歩を踏み出す事ができたように思います。

Q. 今後どのようなことをしたいですか。

A. 私はアメリカでいろんな人々と出会うなかでやはり将来、英語を使った職に就きたいと以前より強く思うようになり、また英語という語学が好きで子どもたちに教えたりすることが好きなのだということを今回の研修の学校訪問などで気づくことができ、そういった関係の仕事に就きたいと思うようになりました。したがって、今後はより自分の語学力を磨くために、TOEICなどでのハイスコアを狙うため勉学に励もうと考えています。また語学力だけでなく、常にネイティブとのコミュニケーションをはかることを忘れず、今回出会う事ができた素晴らしい仲間たちとのコンタクトも取り続けようと思います。

総理工学部数理・情報学科2年 S・Eさん（男）

2016年2月23日～3月25日

中国 北京語言大学

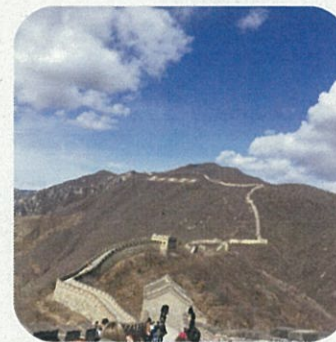
語学研修

Q. 留学前に感じていたことを教えてください。

A. 留学前には中国人の友人に、「すりに気をつけて。」と言われていたので外を出歩くにも緊張感があるなあ、と思っていました。しかし、注意さえしておけばすりは防げると思っていました。そういった意味では一番不安だったことはPM2.5などの大気汚染です。テレビで見たような先が見えない状況だけはいやだなあと思っていました。そのため、大量のマスクと目薬を用意していました。でも、実際はあまり気になるほど大気汚染がひどい日はありませんでした。中国に行く前には不安より期待のほうが多かったです。本場の中華料理はもちろん、日本では体験できない中国文化やいろいろな観光地など楽しみにしていたことが多かったです。

Q. 留学中の思い出を聞かせてください。

A. 留学の一番の思い出はなんと言っても、友達と時間を共有できたことです。中国では日本人はもちろん、日本人以外の友達もできました。その友達たちとは、なにをするときも一緒にしました。授業の予習も、授業を受けるときも、ご飯に誘われたら一緒に行くこともありました。外国人の友達とは言葉の壁がありましたが、それ以上になにか伝わることもあり、一緒にいるだけで楽しかったです。観光地で一番思い出深い場所は万里の長城です。長城に着くと、それまでの想像を超える大きな感動がありました。長城は今まで写真などで見てきたものより大きく感じられ、視線の先にずっとつづき、端と端がどこにあるかわからないほどでした。山のなかを堂々と伸びつづける姿はこの世のものではないような魅力があり、また、長い時間をかけて伸びていったのかと思うと、一步一步に重みを感じられました。



Q. 留学から帰ってきて感じたことはどんなことですか。

A. 真っ先に感じたことは食に対する安心感です。中国ではパンを買うにしても、口に合うのか、合わないのかは食べてみないとわかりませんでした。日本では美味しくもないものどうにか食べることができると思います。しかし、中国の菓子パンでとことん口に合わないものは食べれば食べるほど食欲がなくなる味でした。でも、しばらく日本にいると本物の中華料理を食べたくなりました。今すぐにも、もう一度中国に行きたいです。